

指導と評価の年間計画・評価規準の作成のための参考資料

15 商業

<目次>

1	評価の機能と役割	p 2
2	評価の基本的な考え方	p 3
3	学習指導要領の下での指導要録における観点別学習状況、評定の記録	p 5
4	評価規準について	p 6
5	評価規準の作成	p 7
6	指導と評価の年間計画の手引き	p 16
7	指導と評価の年間計画	p 18
	科目「ビジネス基礎」指導と評価の年間計画例 その1	p 18
	科目「ビジネス基礎」指導と評価の年間計画例 その2	p 19
8	単元ごとの指導と評価の計画	p 20
	科目「ビジネス基礎」単元ごとの指導と評価の計画例 その1	p 20
	科目「ビジネス基礎」小単元ごとの指導と評価の計画例 その2	p 23
9	学習指導案	
	科目「ビジネス基礎」 学習指導案例 その1	p 24
	科目「ビジネス基礎」 学習指導案例 その2	p 25

平成11年に告示された学習指導要領は、平成15年の一部改正も加え、完全学校週5日制の下、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容の確実な習得を図り、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育成することを基本的なねらいとしている。

このようなねらいを実現するための生徒の学習の評価の在り方については、平成12年12月に、教育課程審議会から答申（「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」）が出された。

1 評価の機能と役割

(1) 学校の教育活動は、意図的、計画的、組織的に行われるものであり、一般的に、計画、実践、評価という一連の活動が繰り返されながら、児童生徒のよりよい成長を目指した指導が展開されている。学習の評価は、教育がその目標に照らしてどのように行われ、児童生徒がその目標の実現に向けてどのように変容しているかを明らかにし、また、どのような点でつまずき、それを改善するためにどのように支援していけばよいかを明らかにしようとする、言わば教育改善の方法とも言うべきものであり、学習の評価を適切に行うことは公の教育機関である学校の基本的な責務である。

また、児童生徒にとって評価は、自らの学習状況に気付き、自分を見つめ直すきっかけとなり、その後の学習や発達を促すという意義がある。

児童生徒がそれぞれの個性や能力に応じて、自ら学び、自ら知識や技能などを習得し、自ら創造的な活動を行うのを助けていくことがこれからの教育と教員の重要な役割であることを考えるとき、評価は大きな意味を持つ。

(2) 評価の機能と役割は、一つには、各学年、各学校段階等の教育目標を実現するための教育の実践に役立つようにすることであり、もう一つには、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を目指すこれからの教育の在り方から考えて、児童生徒一人一人のよさや可能性を積極的に評価し、豊かな自己実現に役立つようにすることである。これは、学校や教員が、指導計画や指導方法、教材、学習活動等を振り返り、よりよい指導に役立つようにすることであり、評価とは、児童生徒のための評価であると同時に、学校や教員が進める教育自体の評価でもありとも言うことができる。このようなことから、指導と評価は表裏一体をなすものであり、学校においては、学習指導と評価が常に一体となって行われることが求められる。

(3) どのような評価を行うかということが、これからの社会における教育のあるべき姿を明らかにすることにもなる。そのような意味でも、評価は重要である。すなわち、評価の在り方が示されることにより、どのような資質や能力がこれからの児童生徒に必要であるかを一層明確にすることとなり、新しい教育の在り方について理解を深め、その定着を確かなものにしていく効果が期待される。

(4) 今日、学校教育においては、保護者、地域の人々、国民全体に対し、学校ではどのような教育を進めているのか、児童生徒にどのような資質や能力が身に付いているのか、児童生徒の学習状況等にどのような問題があり今後どのような改善を図る必要があるのか、そのために家庭や地域の人々とどのような協力をしていく必要があるのかなどについて十分に説明していくことが重要である。

このような観点から、児童生徒の学習状況等を適切に評価し、明らかにしていくことは、学校教育への信頼を向上させていく上で欠かすことのできないものと考えられる。保護者や地域の人々に説明を行っていくことの重要性が高まるにつれて、学校教育の中での評価の役割は一層大きくなるものと考えられる。

(平成12年12月教育課程審議会答申より)

2 評価の基本的な考え方

学力については、知識の量のみでとらえるのではなく、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることはもとより、それにとどまることなく、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」がはぐくまれているかどうかによってとらえる必要がある。これからの評価においては、観点別学習状況の評価を基本とした現行の評価方法を発展させ、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）を一層重視するとともに、児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを評価するため、個人内評価を工夫することが重要である。

学校の教育活動は、計画、実践、評価という一連の活動が繰り返されながら展開されるものであり、指導と評価の一体化を図るとともに、学習指導の過程における評価の工夫を進めることが重要である。また、評価が児童生徒の学習の改善に生かされるよう、日常的に児童生徒や保護者に学習の評価を十分に説明していくことが大切である。

評価に当たっては、教育活動の特質や評価の目的等に応じ、評価の方法、場面、時期などを工夫し、児童生徒の成長の状況を総合的に評価することが重要である。評価活動を充実するためには、各学校において、評価の方針、方法、体制などについて、校長のリーダーシップの下、教員間の共通理解を図り、一体となって取り組むことが不可欠である。また、各教員が、評価についての専門的力量を高めるため、自己研鑽に努めたり、校内研究・研修を実施することなどが重要である。

(平成12年12月教育課程審議会答申より)

(1) 評価の基本的な考え方

- | |
|---|
| <p>ア 目標に準拠した評価（絶対評価）をより重視
・新学習指導要領においては、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をは</p> |
|---|

ぐくむことを目指し、学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容の確実な習得を図ることを重視していることから、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価（いわゆる絶対評価）を一層重視

イ 観点別評価を基本とする（4観点）

・「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」

ウ 個人内評価の工夫

・横断的個人内評価 個人が持つ多様な側面や複数の特性同士を比較する。

・縦断的個人内評価 当人の過去のデータと比較する。

エ 指導と評価の一体化の実現

・「指導と評価とは別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという指導に生かす評価を充実させることが重要である。これがいわゆる指導と評価の一体化といわれるものである。

指導と評価の一体化とは

これまでの評価

＝生徒の評定をつけるための評価になりがちであった



指導に生かす評価の充実

＝指導と評価は別物ではなく、評価の結果によってそれ以後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価する。

学校の教育活動 

(2) 適切な評価を実現するための工夫

ア 具体的な評価規準の設定

イ 評価の方法、場面、時期などの工夫

ウ 全体として評価の客観性・信頼性の向上



3 学習指導要領の下での指導要録における観点別学習状況、評定の記録

学習指導要領の下での指導要録の作成の参考となるよう、平成13年4月27日付けで初等中等教育局長から「小学校児童指導要録、中学校生徒指導要録、高等学校生徒指導要録、中等教育学校生徒指導要録並びに盲学校、聾学校及び養護学校の小学部児童指導要録、中学部生徒指導要録及び高等部生徒指導要録の改善等について」（以下「指導要録の改善通知」という）が発出された。

指導要録の改善通知においては、学習指導要領の下での指導要録に記載する事項等として各教科・科目等の学習の記録など各欄の記入方法等が示されている。

(1) 評定の記入方法

各教科・科目の評定は、各教科・科目の学習についてそれぞれ5段階で表し、5段階の表示は、5、4、3、2、1とする。その表示は、高等学校学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき、学校が地域や生徒の実態に即して設定した当該教科・科目の目標や内容に照らし、その実現状況を総括的に評価して、

「十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの」：5

「十分満足できると判断されるもの」：4

「おおむね満足できると判断されるもの」：3

「努力を要すると判断されるもの」：2

「努力を要すると判断されるもののうち、特に低い程度のもの」：1

とする。

評定に当たっては、ペーパーテスト等による知識や技能のみの評価など一部の観点に偏した評定が行われることのないように、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技

能・表現」、「知識・理解」の4つの観点による評価を十分踏まえながら評価を行っていくとともに、5段階の各段階の評定が個々の教師の主観に流れて客観性や信頼性を欠くことのないよう学校として留意する。その際、表1に各教科の評価の観点及びその趣旨を示しているので、この観点を十分に踏まえながらそれぞれの科目のねらいや特性を勘案して具体的な評価規準を設定するなど評価の在り方の工夫・改善を図ることが望まれる。

このように、今回の指導要録の改善通知においては「目標に準拠した評価」を進めるに当たり、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の4つの観点による評価を行うべきことがより明確に記述されるとともに、評価の在り方の工夫・改善を図るための方策として「具体的な評価規準を設定する」ことが、初めて取り上げられることとなった。

表1 教科「商業」の評価の観点及びその趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ビジネスの諸活動に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスに対する望ましい心構えや実践的な態度を身に付けている。	ビジネスの諸活動に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。	商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの意義や役割を理解している。

※趣旨とは、商業科の目標及び内容を踏まえて具体的に記述したもの

4 評価規準について

学習指導要領に示す目標の実現の状況を客観的に判断するためのよりどころを意味するものとして「評価規準」の概念を導入した。「評価規準」という用語については、新しい学力観に立って子供たちが自ら獲得し身に付けた資質や能力の質的な面、すなわち、学習指導要領の目標に基づく幅のある資質や能力の育成の実現状況の評価を目指すという意味から用いたもの。

生徒に学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容が確実に身に付いているかどうかを適切に評価し、指導や学習の改善に生かしていくためには、生徒の学習の状況をどの

ような規準や方法等で明らかにしていくことが重要である。

特に、今後、目標に準拠した評価を重視していく上では、各学校における評価が客観的で、信頼できるものであることが重要であり、学習指導要領が目指す学力観に立つ教育と指導要録における評価とは一体のものであるとの考え方に立って、各教科の目標の実現の状況を「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」及び「知識・理解」の観点ごとに適切に評価するため、評価規準を設定していくことが求められている。

(参考 表1 教科「商業」の評価の観点及びその趣旨)

評価規準は「おおむね満足できる」状況について設定しそれに照らして、「十分満足できる」状況や「努力を要する」状況を判断する。

目標に照らしてその実現状況を見る評価



5 評価規準の作成

評価規準は、次の内容構成で作成することが考えられる。

- ① 科目の目標は、新学習指導要領に示す当該科目の目標である。

学習指導要領の科目「ビジネス基礎」の目標

ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。

- ② 科目の評価の観点及びその趣旨は、新学習指導要領及び指導要録改善通知（表1）に示された当該教科の評価の観点及びその趣旨をもとに作成される。

【例 科目「ビジネス基礎」の評価の観点及びその趣旨】

(平成16年3月評価規準、評価方法等の研究開発(報告))

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>ビジネスの諸活動に広く関心をもち、その意義や役割の理解及び諸問題の探究を目指して意欲的に取り組むとともに、経済社会の一員としての望ましい心構えや態度を身に付けている。</p>	<p>ビジネスに関する諸問題を経済生活との関連から的確に把握し、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。</p>	<p>ビジネスに関する基礎的・基本的な技術と望ましい心構えを身に付け、経済社会の一員としてビジネスの諸活動を適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。</p>	<p>商業を学ぶ目的や学び方を理解するとともにビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済社会におけるビジネスの意義や役割を理解している。</p>

- ③ 大項目ごとの評価規準は、学習指導要領の「内容」の(1)、(2)などの大項目ごとの内容のまとまりとして、評価規準を作成したもの。

【例 学習指導要領の内容(1) 商業の学習ガイダンス】

ア 商業を学ぶ目的と学び方

ここでは、商業を学ぶことで、豊かな人間性、創造性、ビジネスの理解力と実践力など、ビジネスの基礎・基本の能力を身に付けることができることを理解させるとともに、自ら学ぶ目標を定め、自ら学び、自ら考えるなどの主体的な学び方や生涯にわたり専門的能力を向上させる継続的な学び方について理解させる。

イ 商業の学習分野

ここでは、商業の学習分野である流通ビジネス、国際経済、簿記会計、経営情報の4分野の科目や科目の内容に触れるとともに、各分野が目指しているビジネスの理解力と実践力であるマーケティング能力、国際交流能力、会計活用能力、情報活用能力の意義について理解させる。また、学習分野と資格取得との関係や卒業後の進学先や就職先など進路についてのガイダンスを行い、将来のスペシャリストとして必要とされる専門性の基礎・基本の学習の重要性について理解させる。

【例 内容のまとめりごとの評価規準】

(平成16年3月評価規準、評価方法等の研究開発 (報告))

学習指導要領の内容 (大項目 内容のまとめり)	内容のまとめりごとの評価規準			
	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
(1) 商業の学習ガイダンス	商業の学習ガイダンスに関心を持ち、商業を学ぶ目的と学び方及び商業の学習分野の意義について、意欲的に調べたりまとめたりしようとする。	商業を学ぶ目的と学び方及び学習分野について、様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識を活用して主体的、継続的な学び方や自らの進路をとらえている。	商業を学ぶ目的と学び方及び学習分野に関する様々な資料を活用して、商業の学習分野と進路のかかわりについて把握するとともに、その過程及び結果を具体的に説明できる。	商業の学習ガイダンスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け商業の学習と進路の結び付きの大切さを理解している。
(2) 経済生活とビジネス	経済生活とビジネスのかかわりに関心を持ち、ビジネスの役割とその発展について、意欲的に調べたりまとめたりしようとするとともに、ビジネスに対する心構えを身に付けようとする。	ビジネスの役割やその発展及びビジネスに対する心構えについて、経済社会の一員として様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識を活用してビジネスに関する諸問題を見付けている。	ビジネスの役割やその発展及びビジネスに対する心構えについて、様々な資料を活用して把握し具体的に説明するとともに、ビジネスに対する基本的な心構えを身に付け実践できる。	経済生活とビジネスのかかわりに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済の仕組みやビジネスの役割とその発展及びビジネスに対する基本的な心構えを理解している。
(3) ビジネスと流通活動	ビジネスと流通活動のかかわりに関心を持ち、経済活動における流通の経済的特質やその担い手である企業及びビジネスの担当者について、意欲的に調べたりまとめたりしようとする。	流通活動の特徴やその担い手である企業について、様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識を活用して流通活動の諸問題の因果関係や相互関係をとらえている。	流通活動の特徴やその担い手である企業に関する様々な資料を活用して、ビジネスと流通活動のかかわりについて把握するとともにその過程や結果を具体的に説明できる。	ビジネスと流通活動に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、流通の意義や役割及びビジネスの担当者の活動の概要を理解している。
(4) ビジネスと売買取引	ビジネスと売買取引のかかわりに関心を持ち、流通活動における売買取引、代金決済の仕組み及び売買取引の方法について、意欲的に確認しようとする。	売買取引と代金決済及び売買取引に関する計算について、様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識と技術を活用して売買取引の手順や計算方法及び代金決済手段の諸問題を見付けている。	売買取引と代金決済及び売買取引に関する計算について、様々な資料を活用して、各種の計算方法を把握するとともに、売買取引の代金決済について適切に処理できる。	ビジネスと売買取引に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、流通活動における売買取引、代金決済の仕組み及び売買取引の方法を理解している。
(5) 外国人とのコミュニケーション	外国人とのコミュニケーションに関心を持ち、国内においてビジネスで外国人に接する場合のコミュニケーションの方法や心構え及び日常の会話について、意欲的にまとめたり確認したりしようとする。	コミュニケーションの方法やその心構えについて、様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識と技術を活用して日常の会話に親しみ、外国人とのコミュニケーションの諸問題を見付けている。	コミュニケーションの方法やその心構えについて、様々な資料を活用して把握するとともに、国内において外国人と接したときの身近な会話を考え適切に表現できる。	外国人とのコミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、国内においてビジネスで外国人に接する場合のコミュニケーションの方法や心構え及び日常の会話の大切さを理解している。

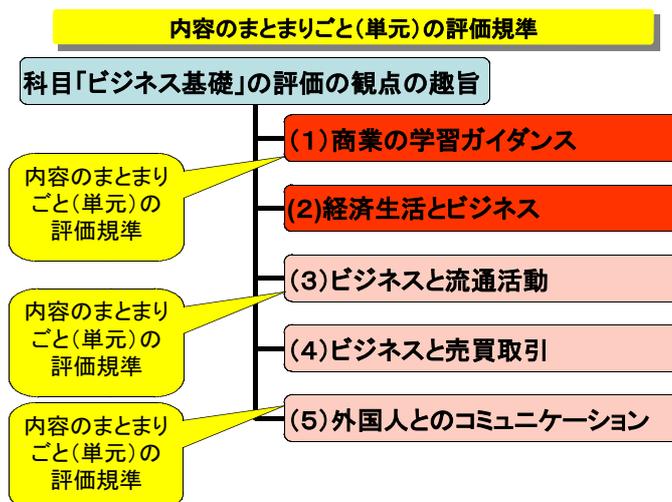
- ④ 単元の目標は、実際の使用教科書等にもとづいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標である。

※学習指導要領の項目ごとのねらいを基本に記載

単元の評価規準は、単元ごとに4観点別に示した評価規準を指し、「内容のまとめりごとの評価規準」を教科書の単元の内容に即して具体化したものである。

「内容のまとめり」は学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教

科書等に基づく単元と一致していないことがある。



＜参考資料＞ 「新学習指導要領」と「教科書」の構成（内容の順序等）の不一致の例

学習指導要領の項目と、使用する教科書等に基づいて実施する授業の単元とは、どの会社の教科書を用いる場合でもある程度の不一致が生じる。

「指導と評価の年間計画」は「目的に準拠した評価規準」を示し、かつ当然であるが現実の授業の進行のもととなるものでなければならない。

したがって、計画の構成及び記載の方法に付いては各学校で工夫が必要である。

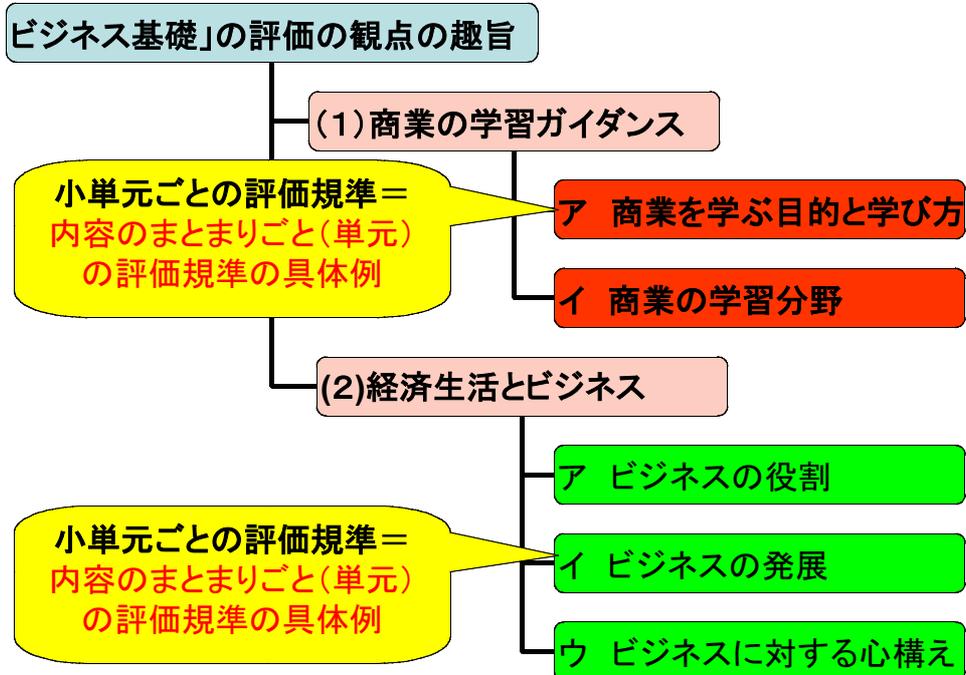
学習指導要領の内容（項目）	教科書項目（〇〇出版ビジネス基礎）
(1) 商業の学習ガイダンス	ア 商業を学ぶ目的と学び方 第1章 商業の学習ガイダンス 1 21世紀を生きる
	イ 商業の学習分野 2 ゆっくり楽しく学ぶ
(2) 経済生活とビジネス	ア ビジネスの役割 第2章 経済生活とビジネス 1 経済のしくみとビジネス 2 ビジネスの役割
	イ ビジネスの発展 3 ビジネスの発展
	ウ ビジネスに対する心構え 4 ビジネスに対する心がまえ
(3) ビジネスと流通活動	ア 経済活動と流通 第3章 ビジネスと流通活動 1 経済活動と流通
	イ 流通活動の特徴 2 流通活動の特徴
	ウ 流通活動と企業 3 流通活動と企業
	エ ビジネスの担当者 4 ビジネスの担当者
(4) ビジネスと売買取引	ア 売買取引と代金決済 第4章 ビジネスと売買取引 1 売買取引と代金決済
	イ 売買に関する計算 2 売買に関する計算
(5) 外国人とのコミュニケーション	ア コミュニケーションの方法 第5章 外国人とのコミュニケーション 1 コミュニケーションの心がまえ
	イ コミュニケーションの心構え 2 コミュニケーションの方法
	ウ 日常の会話 3 日常の会話

⑤ 内容のまとまりごとの評価規準の具体例(小单元ごとの評価規準)

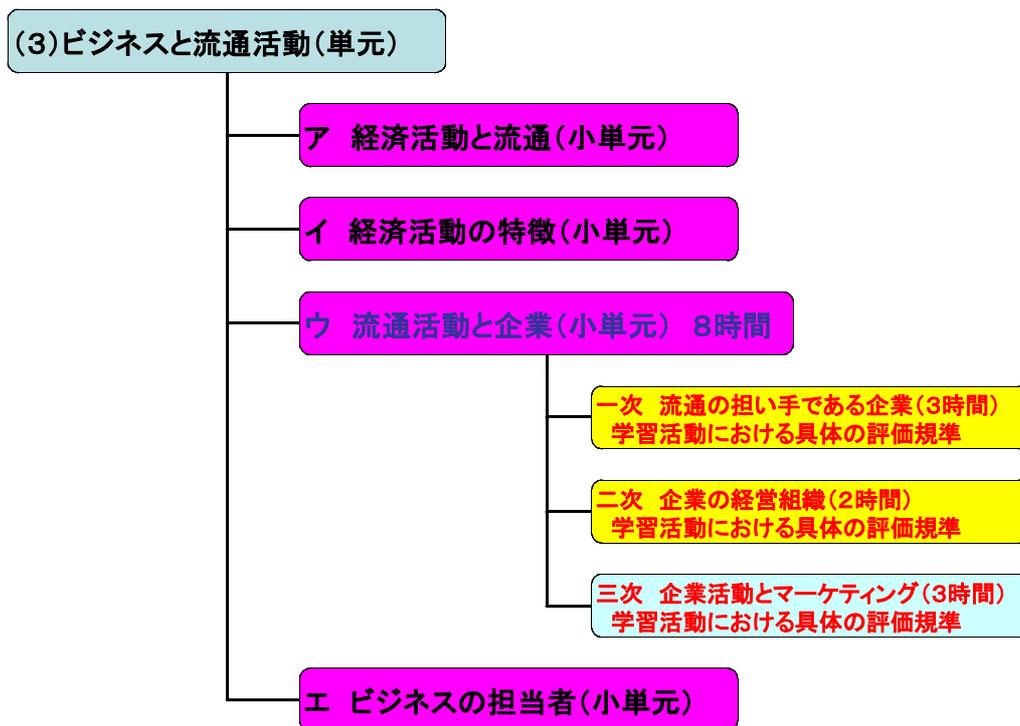
学習指導要領の「内容」の(1)商業の学習ガイダンスの大項目の中の

(ア) 商業を学ぶ目的と学び方

(イ) 商業の学習分野 をまとまりとした評価規準



【実際の教科書による小単元と学習活動における具体の評価規準の関係】



【例 学習活動における具体の評価規準】

小単元「企業活動とマーケティング」の指導と評価の計画（三次抜粋）

授業の流れ		一次 流通の担い手である企業（3時間） 二次 企業の経営組織（2時間） 三次 企業活動とマーケティング（3時間）				
次	時	学習内容	学習活動における具体の評価規準および評価方法			
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
3	1	・マーケティングとは何か理解させる。	①マーケティングとはどんな活動か関心をもち、意欲的にまとめようとしている。 (行動観察)			
	2	・マーケティング活動の内容をビジネスシミュレーションソフトを利用し理解させる。		②ビジネスシミュレーションソフトを通して、マーケティングの要素が、コンビニ経営に与える影響について考察している。 (ワークシート)		②マーケティング活動内容にはどのような活動があるのか、ビジネスシミュレーションソフトを利用しその内容を理解している。 (対話・ワークシート)
	3	・マーケティング管理をビジネスシミュレーションソフトを利用し理解させる。			③マーケティング管理とはどういうことか、ビジネスシミュレーションソフトを利用してわかることを説明できる。 (ノート)	

※1 単位時間における評価規準は目標に照らして学習の実現状況が判断できるよう、生徒の具体的な実現状況を示す姿を想定して作成することが大切である。ただし、1 単位時間ごと、各観点についてすべて評価しようとするれば、実際に評価することが困難な場合も生じてくる。単元（題材）全体の学習活動の流れを見通して、バランスよく、どの時間でどの観点を評価するかを整理しておく必要がある。そのためには、1 単位時間における目標を基に、最も重視する観点を明確にし、育てたい資質や能力を適切に評価できるようにしておくことが大切である。

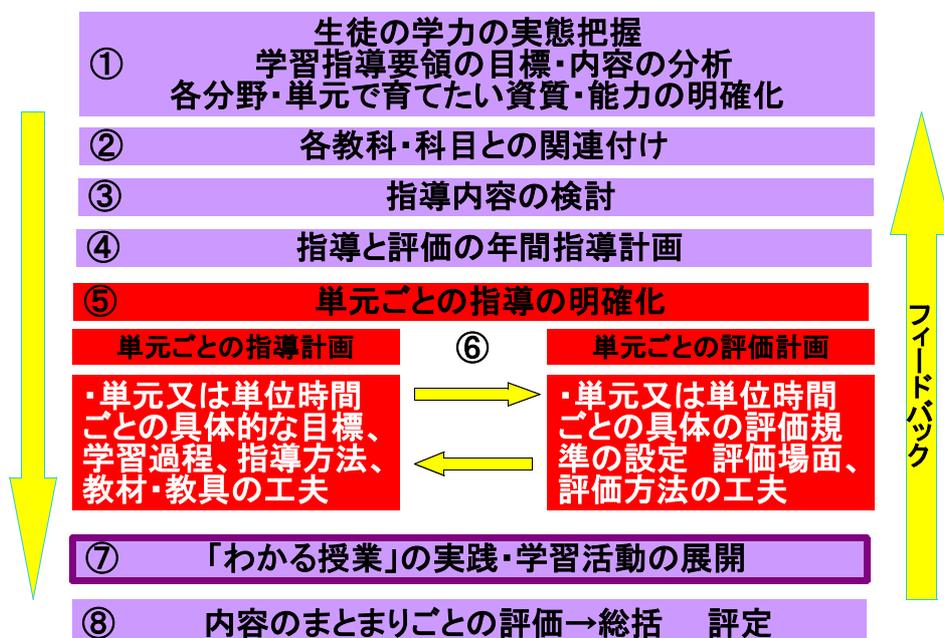
評価規準を精選する場合、まず、単元（題材）の目標を明確にするとともに、その単元（題材）において学習指導をどのように展開するかを計画する必要がある。その上で、評価規準を精選する視点として、次の3点を挙げることができる。

- ・単元(題材)の目標のポイントとなる部分を評価する評価観点を選ぶ。
- ・学習指導の展開に応じて、重視すべき評価観点を選ぶ。
- ・各観点がバランス良く評価されるように評価観点を選ぶ。

授業の過程できめ細かく評価することが理想的ではあるが実際には評価規準を精選し、生徒の学習の実現状況を無理なく適切に評価できるようにすることが重要である。

6 指導と評価の年間計画の手引き

適切な評価を実施するためには、年度初めの段階で「指導と評価の年間計画」、「評価規準」が作成されていなければならない。それに基づき、授業の実践・評価、評価結果の分析・評価規準の修正、授業の改善がなされ、最終的には評定へと総括されなければならない。大まかな流れは下記のとおりである。



- ①生徒の学力の実態把握や地域や学校の実態、課程や学科の特色、生徒の特性等を考慮し、学習指導要領の目標・内容の分析を踏まえて、各分野・単元で育てたい資質・能力の明確にする。
- ②各教科・科目との関連付け
各教科・科目等について相互の連携を図り、発展的、系統的な指導ができるようにする。
各教科・科目等の間の不要な重複を避け、指導の要点を明確にする。
- ③指導内容の検討
生徒の実態に対応して指導の重点の置き方、指導事項の配列など指導順序の検討
- ④指導と評価の年間計画
指導目標、指導内容、指導順序、指導方法、使用教材、指導の配当時間、評価時期、評価方法について検討する。
- ⑤単元ごとの指導の明確化
- ⑥単元ごとの指導計画と評価計画
各単元で身につけさせるべき資質・能力を明確にし、具体的な評価規準を設定する。
設定された評価規準に基づき、どの指導場面でどの評価を行うかについて、少なくとも単元ごとの計画が作成されていなければならない。

⑦わかる授業の実践・学習活動の展開

⑧内容のまとまりごと（教科書で言う単元）の評価、総括 さらに、学期への総括、1年の評定という流れで指導と評価の一体化に取り組んでいく。

そのためには、「評価規準に基づく観点別の評価の趣旨を生かした評定」を実現する総括のシステムが作成されていなければならない。

7 指導と評価の年間計画

(1) 科目「ビジネス基礎」指導と評価の年間計画 その1

目標 【学習指導要領】 到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。 ・商業を学ぶ目的や学び方、商業に関する専門的な学習への動機付けを卒業後の進路と結びつけるために、生徒の主体性を重視して調べ学習やアンケートを実施する。 ・生産・流通・消費の経済の仕組みと日常の経済活動の結びつきを理解させ、新聞やニュースなどから経済活動に関わる情報を収集する習慣を身に付けさせるとともに、各授業ごとに知識・理解や関心・意欲を問う課題を盛り込み、経済社会の一員として必要な資質・能力を高めるために自己評価を実施したり、レポートを提出させる。 ・実習や諸資料の分析などを通して、事象を追及する姿勢を身に付けることができるよう、表・グラフ・資料等を考察したり、グループ討議する中で、自分の考えで判断したり表現できるような場面を多く設定する。 ・語学力を重視して英語に慣れ親しませるため、日常的に会話ができる場面を多く設定する。また、基本的な用語やビジネスに関する用語を英語表記して英語に慣れ親しませる。
---	---

月	単元名	使用教科書項目(〇〇出版ビジネス基礎)	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4月	第1章 1 21世紀を生きる	1 ビジネスの世界を生きる 2 たくましく生きる 3 とともに生きる	1 1	・商業科目の学習を通して、ビジネスの基礎・基本の能力を理解する。 ・商業科目を理解するとともに、商業科目の主体的な学習方法や生涯学習の必要性を理解する。	行動観察 グループ別学習 ノート 質問紙
	2 ゆっくり楽しく学ぶ	1 学習内容のアウトライン 2 ゆっくり楽しく学習しよう	1 2	・商業の学習分野の学習を通して、各分野が目指しているビジネスの理解力や実践力の意義を具体的に理解する。 ・商業の学習分野と資格取得との関係や卒業後の進路について考える。	レポート 作文 単元テスト 生徒の自己評価
5月	第2章 1 経済のしくみとビジネス	1 経済のしくみとビジネス 2 ビジネスのことを学ぼう	2 1	・経済を支える仕組みと経済主体を理解する。 ・ビジネスの意義や役割について、身近な事例を取り上げて理解する。	行動観察 グループ別学習 プリント確認
	2 ビジネスの役割		1	・我が国のビジネスの発展について、国際化、情報化、サービス化、科学技術の進展と関連して理解する。	ノート 質問紙
	3 ビジネスの発展	1 国際化とビジネス 2 情報化とビジネス 3 サービス経済化とビジネス 4 科学技術の進展とビジネス 5 ビジネスの発展がもたらした課題	1 1 1 1 1	・地球環境問題、エネルギー問題への対応など新たなビジネスの課題を考察し、ビジネスの創造の重要性について理解する。 ・ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行なうために求められる資質や能力及びビジネスに対する心構えについて理解する。 ・起業家精神や企業経営に関する理念やビジネスに対する望ましい考え方について理解する。	レポート 小テスト 単元テスト ペーパーテスト 授業評価表の記入
6月	4 ビジネスに対する心がまえ	1 人と人とのつながり 2 技術やアイデアを生み出す 3 いつもやさしい気持ちで 4 理念をもつ	1 1 1 1		
	第3章 1 経済活動と流通	1 経済活動のなかの流通 2 こんにちの流通	2 1	・経済を支える仕組みとの関わりで流通の意義や役割を身近な事例を取り上げて理解する。 ・生活水準の向上や生産の高度化によって流通の役割が大きくなっていることについて理解する。	行動観察 プリント確認 ノート
7月	2 流通活動の特徴	1 流通の働き 2 流通のしくみ 3 環境の変化と流通	2 2 1	・流通の機能を取り上げ、流通活動全体に共通する経済的特徴を、小売業の業種、業態の変化との関わりで理解する。 ・経済社会の発展や消費者ニーズの多様化による流通活動の変化について考える。	質問紙 レポート 実習成果物 小テスト
	3 流通活動と企業	1 流通の担い手である企業 2 企業の経営組織 3 企業活動とマーケティング	2 2 2	・企業の形態や組織を事例により理解する。 ・マーケティングを理解するとともに、企業活動におけるマーケティング活動の必要性を考える。	単元テスト ペーパーテスト 授業評価表の記入
10月	4 ビジネスの担当者	1 生産者のビジネスを知ろう 2 売買取引のビジネスを知ろう 3 物流業者のビジネスを知ろう 4 金融業者のビジネスを知ろう 5 保険業者のビジネスを知ろう 6 情報・通信業者のビジネスを知ろう 7 サービス業者のビジネスを知ろう	2 2 1 1 1 1 1	・生産者、卸売・小売業、金融・保険業、運輸・通信業、サービス業などビジネスの意味とその担当者の役割について理解する。 ・ビジネスの担当者からビジネス活動や役割についての話を聞いたり、ビジネスに関連する進路状況を調べる。	
	第4章 1 売買取引と代金決済	1 売買取引の手順 2 代金決済の方法を知ろう 3 電子商取引	3 3 1	・売買契約の条件、売買契約の締結と履行、代金決済を中心として売買取引に関する基礎的な知識を理解するとともに、売買取引の流れを模擬的に体験する。 ・代金決済について簿記会計との関連で論理的に理解する。	行動観察 グループ別学習 プリント確認 ノート
	2 売買に関する計算	1 割合 2 数量と代価 3 仕入原価と売価(販売価格) 4 度量衡と外国貨幣	2 1 1 1 2	・電子商取引、電子マネーの仕組みを理解する。 ・基礎的な計算、利益率の計算、売買に必要な度量衡、外国貨幣の計算や換算について、演習を通して理解を深める。	質問紙 レポート 実習成果物 小テスト 単元テスト ペーパーテスト 授業評価表の記入
	第5章 1 コミュニケーションの心がまえ	1 異なった文化・習慣(外国事情を知る) 2 自国の文化・習慣 3 国際マナー	1 1 1	・ビジネスにおける外国人とのコミュニケーションの必要性を理解する。 ・外国人に対して、相手の立場を尊重し積極的に交流するなど、ビジネスにおいて外国人とコミュニケーションを行なうための心構えを理解する。	行動観察 グループ別学習 プリント確認 ノート
	2 コミュニケーションの方法	1 会話を楽しく 2 会話を楽しくする表現 3 感情をあらわす表現 4 動作(ジェスチャー)	1 1 1 1	・外国人と接する場面を取り上げ、日常よく用いられる身近な会話に慣れ親しむ。 ・我が国における日常生活の過ごし方を外国人に正しく紹介するための基礎的な知識を身に付ける。	質問紙 小テスト 単元テスト ペーパーテスト 実技テスト 生徒の相互評価 授業評価表の記入
	3 日常の会話	1 あいさつと紹介 2 電話の応対 3 会社訪問 4 料亭での食事 5 デパートでお買物 6 道案内 7 名所の案内 8 ホームパーティ 9 趣味 10 販売実習	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	・コミュニケーションで相手のことを知る大切さや英語を話す際の表情や表現の重要性を身に付ける。 ・英語で簡易な自己紹介ができる。 ・ビジネスに関して簡易な英会話ができる。	
	2・3月		後期期末考査	1	
合計時間数				70	

(2) 科目「ビジネス基礎」指導と評価の年間計画 その2

教科書項目 (出版ビジネス基礎)			単元の評価規準					
月	単元名	使用教科書項目	時数	主な学習内容 (指導内容)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
4	第1章 商業の学習ガイダンス 1 21世紀を生きる	1 ビジネスの世界を生きる 2 たくましく生きる 3 ともに生きる	2 1	・商業科目の学習を通して、ビジネスの基礎・基本の能力を理解する。 ・商業科目を理解するとともに、商業科目の主体的な学習方法や生涯学習の必要性を理解する。 ・商業の学習分野の学習を通して、各分野が目指しているビジネスの理解力や実践力の意義を具体的に理解する。 ・商業の学習分野と資格取得との関係や卒業後の進路について考える。	商業の学習ガイダンスに関心をもち、商業を学ぶ目的と学習方法及び商業の学習分野の意義について、意欲的に調べたりまとめたりしようとする。	商業を学ぶ目的と学習方法及び学習分野について、様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識を活用して主体的、継続的な学習方法や自らの進路をとらえている。	商業を学ぶ目的と学習方法及び学習分野に関する様々な資料を活用して、商業の学習分野と進路のかわりについて把握できるとともに、その過程及び結果を具体的に説明できる。	商業の学習ガイダンスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け商業の学習と進路の結び付きの大切さを理解している。
	2 ゆっくり楽しく学ぶ	1 学習内容のアウトライン 2 ゆっくり楽しく学習しよう	1 2		行動観察・ワークシート・考査	行動観察・プリント・発言・考査	ワークシート・プリント・発言・考査	発言・プリント・考査
5	第2章 経済生活とビジネス 1 経済のしくみとビジネス 2 ビジネスの役割	1 経済のしくみとビジネス 2 ビジネスのことを学ぼう	2 1	・経済を支える仕組みと経済主体を理解する。 ・ビジネスの意義や役割について、身近な事例を取り上げて理解する。 ・我が国のビジネスの発展について、国際化、情報化、サービス化、科学技術の進展と関連して理解する。	経済生活とビジネスのかかわりに関心をもち、ビジネスの役割とその発展について、意欲的に調べたりまとめたりしようとする。	ビジネスの役割やその発展及びビジネスに対する心構えについて、経済社会の一員として様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識を活用してビジネスに関する諸問題を見付けている。	ビジネスの役割やその発展及びビジネスに対する心構えについて、様々な資料を活用して把握し具体的な説明できるとともに、ビジネスに対する基本的な心構えを身に付け実践できる。	経済生活とビジネスのかかわりに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済の仕組みやビジネスの役割とその発展及びビジネスに対する基本的な心構えを理解している。
	3 ビジネスの発展	1 国際化とビジネス 2 情報化とビジネス 3 サービス経済化とビジネス 4 科学技術の進展とビジネス 5 ビジネスの発展がもたらした課題	2 1 1 1	・地球環境問題、エネルギー問題への対応など新たなビジネスの課題を考察し、ビジネスの創造の重要性について理解する。 ・ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行なうために求められる資質や能力及びビジネスに対する心構えについて理解する。 ・起業家精神や企業経営に関する理念やビジネスに対する望ましい考え方について理解する。(知的財産)				
6	4 ビジネスに対する心がまえ	1 人と人とのつながり 2 技術やアイデアを生み出す 3 いつもやさしい気持ちで 4 理念をもつ 前期中間考査	1 1 1 1		行動観察・ワークシート・考査	行動観察・ノート・ワークシート・考査	レポート・発表・考査	ノート・ワークシート・考査
	第3章 ビジネスと流通活動 1 経済活動と流通 2 流通活動の特徴	1 経済活動のなかの流通 2 こんにちの流通 1 流通の働き 2 流通のしくみ 3 環境の変化と流通	1 1 1 1	・経済を支える仕組みとの関わりで流通の意義や役割を身近な事例を取り上げて理解する。 ・生活水準の向上や生産の高度化によって流通の役割が大きくなっていることについて理解する。 ・流通の機能を取り上げ、流通活動全体に共通する経済的特徴を、小売業の業種、業態の変化との関わりで理解する。 ・経済社会の発展や消費者ニーズの多様化による流通活動の変化について考える。 ・企業の形態や組織を事例により理解する。 ・マーケティングを理解するとともに、企業活動におけるマーケティング活動の必要性を考える。(ビジネスシミュレーションソフトによる体験学習) ・生産者、卸売・小売業、金融・保険業、運輸・通信業、サービス業などビジネスの意味とその担当者の役割について理解する。(株式売買ゲーム) ・ビジネスの担当者からビジネス活動や役割についての話を聞いたり、ビジネスに関連する進路状況を調べる。	ビジネスと流通活動のかかわりに関心をもち、経済活動における流通の経済的特徴やその担い手である企業及びビジネスの担当者について、意欲的に調べたりまとめたりしようとする。	流通活動の特徴やその担い手である企業について、様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識を活用して流通活動のかかわりについて把握できるとともにその過程や結果を具体的に説明できる。	流通活動の特徴やその担い手である企業にできる様々な資料を活用して、ビジネスと流通活動のかかわりについて把握できるとともにその過程や結果を具体的に説明できる。	ビジネスと流通活動に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、流通の意義や役割及びビジネスの担当者の活動の概要を理解している。
7	3 流通活動と企業	1 流通の担い手である企業 2 企業の経営組織 3 企業活動とマーケティング 前期期末考査	2 3 3 1		行動観察・自己評価・ノート・課題	ノート・ワークシート・考査	対話・発表・考査	ワークシート・単元テスト・考査
	4 ビジネスの担当者	1 生産者のビジネスを知ろう 2 売買取引のビジネスを知ろう 3 物流業者のビジネスを知ろう 4 金融業者のビジネスを知ろう 5 保険業者のビジネスを知ろう 6 情報・通信業者のビジネスを知ろう 7 サービス業者のビジネスを知ろう	2 2 2 2 2 2 2					
12	第4章 ビジネスと売買取引 1 売買取引と代金決済	1 売買取引の手順 2 代金決済の方法を知ろう 3 電子商取引	4 3 1	・売買契約の条件、売買契約の締結と履行、代金決済を中心として売買取引に関する基礎的な知識を理解するとともに、売買取引の流れを模擬的に体験する。(帳票作成) ・代金決済について簿記会計との関連で論理的に理解する。 ・電子商取引、電子マネーの仕組みを理解する。 ・基礎的な計算、利益率の計算、売買に必要な度量衡、外国貨幣の計算や換算について、演習を通して理解を深める。	ビジネスと売買取引のかかわりに関心をもち、流通活動における売買取引、代金決済の仕組み及び売買取引の方法について、意欲的に確認しようとする。	売買取引と代金決済及び売買に関する計算について、様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識と技術を活用して売買取引の手順や計算方法及び代金決済手段の諸問題を見付けている。	売買取引と代金決済及び売買にできる計算について、様々な資料を活用して、各種の計算方法を把握できるとともに、売買取引の代金決済について適切に処理できる。	ビジネスと売買取引に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、流通活動における売買取引、代金決済の仕組み及び売買取引の方法を理解している。
	2 売買に関する計算	1 割合 2 数量と代価 後期中間考査 3 仕入原価と売価 (販売価格) 4 度量衡と外国貨幣	2 2 1 1 2		行動観察・考査	ノート・考査・帳票作成	対話・帳票作成・考査	ワークシート・帳票作成・考査
2 3	第5章 外国人とのコミュニケーション 1 コミュニケーションの方法 2 コミュニケーションの心がまえ	1 異なった文化・習慣 (外国事情を知る) 2 自国の文化・習慣 1 会話を楽しく 2 会話を楽しくする表現 3 感情をあらわす表現 4 動作 (ジェスチャー)	1 1 1 1	・ビジネスにおける外国人とのコミュニケーションの必要性を理解する。 ・外国人に対して、相手の立場を尊重し積極的に交流するなど、ビジネスにおいて外国人とコミュニケーションを行なうための心構えを理解する。 ・外国人と接する場面を取り上げ、日常よく用いられる身近な会話に慣れ親しむ。 ・我が国における日常生活の過ごし方を外国人に正しく紹介するための基礎的な知識を身に付ける。 ・コミュニケーションで相手のことを知ることの大切さや英語を話す際の表情や表現の重要性を身に付ける。 ・英語で簡易な自己紹介ができる。(名刺交換・ペアワーク) ・ビジネスに関して簡易な英会話ができる。	外国人とのコミュニケーションに関心をもち、国内においてビジネスで外国人に接する場合のコミュニケーションの方法や心構えにまともな確認したりしようとする。	コミュニケーションの方法やその心構えについて、様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識と技術を活用して日常の会話に親しみ、外国人とのコミュニケーションの諸問題を見付けている。	コミュニケーションの方法やその心構えについて、様々な資料を活用して把握できるとともに、国内において外国人と接したときの身近な会話を考え適切に表現できる。	外国人とのコミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、国内においてビジネスで外国人に接する場合のコミュニケーションの方法や心構え及び日常の会話の大切さを理解している。
	3 日常の会話	1 あいさつと紹介 2 電話の応対 3 会社訪問 4 料亭での食事 5 デパートでお買物 6 道案内 7 名所の案内 8 ホームパーティ 9 趣味 10 販売実習 学年末考査	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		行動観察・ノート・自己評価・考査	行動観察・ノート・考査	対話・行動観察・練習問題・実技テスト・考査	対話・プリント・考査
		合計時数	70					

8 単元ごとの指導と評価の計画

(1) 単元ごとの指導と評価の計画 その1

1 科目の目標

ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ビジネスの諸活動に広く関心を持ち、その意義や役割の理解及び諸問題の探究を目指して、主体的に学習に取り組むとともに、経済社会の一員としての望ましい心構えや態度を身に付けている。	ビジネスに関する諸問題を経済生活との関連から的確に把握し、自ら考察を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	ビジネスに関する基礎的・基本的な技術と望ましい心構えを身に付け、経済社会の一員としてビジネスの諸活動を適切に実践するとともに、その成果を的確に表現する。	商業を学ぶ目的や学び方を理解するとともに、ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済社会におけるビジネスの意義や役割を理解している。

3 「(1)商業の学習ガイダンス」の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
商業の学習ガイダンスに関心を持ち、商業を学ぶ目的と学び方及び商業の学習分野について、自ら進んで調べたりまとめたりしようとする。	商業を学ぶ目的と学び方及び学習分野について、様々な角度から主体的かつ客観的に考察するとともに、自らの学習分野と進路を結びつけて判断しようとする。	商業の各分野と学習に関する様々な資料を適切に選択して活用し、商業の学習分野と進路のかかわりについて、客観的に把握しその過程及び結果を的確に表現する。	商業を学ぶ目的と学び方及び学習分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、自らの学習と進路の結びつきの大切さを理解している。

1 21世紀を生きる

□小単元の目標

商業を学ぶことで、豊かな人間性、創造性、ビジネスの理解力と実践力など、ビジネスの基礎・基本の能力を身に付けることができることを理解させるとともに、自ら学ぶ目標を定め、自ら学び、自ら考えるなどの主体的な学び方や生涯にわたり専門的能力を向上させる継続的な学び方について理解させる。

□小単元ごとの評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
なぜ商業科目を学ぶのか、どのような学び方が大切になってきているのかについて、自ら進んで調べたりまとめたりしようとする。	なぜ商業科目を学ぶのか、どのような学び方が大切になってきているのかについて、様々な角度から考察しようとする。	なぜ商業科目を学ぶのか、どのような学び方が大切になってきているのかについて、様々な資料を活用して客観的に把握し、具体的に説明することができる。	なぜ商業科目を学ぶのか、どのような学び方が大切になってきているのかについて、基礎的・基本的な知識を身に付け、その大切さを理解する。

□各授業時間ごとの主な内容 (【関】:【関心・意欲・態度】、【思】:【思考・判断】、【技】:【技能・表現】、【知】:【知識・理解】)

1 ビジネスの世界を生きる			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1時間目	○ビジネスの基礎・基本的能力	○商業科目を学ぶ目的を自ら進んで調べようとする。【関】 ○卒業後の進路や生涯学習の視点を踏まえ商業科目を学ぶ目的を考えようとする。 ○商業科目の基礎的・基本的な知識を身に付け、その大切さを理解する。【知】 ・マーケティング能力 ・国際交流能力 ・会計活用能力 ・情報活用能力	○プリント提出確認 ノートの提出状況と学習内容のまとめ方を評価する。

2 たくましく生きる

3 ともに生きる			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第2 時間目	○ビジネスに必要な創造性・主体性・豊かな人間性	○商業科目の学び方を自ら進んで調べたりまとめたりしようとする。 ○卒業後の進路や生涯学習の視点を踏まえ商業科目の学び方を考えようとする。【思】 ○様々な資料を活用して商業科目の学び方を考察する。【技】 ○商業科目を理解するとともに、主体的な学び方を理解する。 ・創造性 ・主体性 ・豊かな人間性	○グループ学習 グループ討議の中で商業科目の学び方を検討し、その態度や発表内容を評価する。

2 ゆっくり楽しく学ぶ

□小単元の目標

商業の学習分野である流通ビジネス、国際経済、簿記会計、経営情報の4分野の科目や科目の内容に触れるとともに、各分野が目指しているビジネスの理解力と実践力であるマーケティング能力、国際交流能力、会計活用能力、情報活用能力の意義について理解させる。また、学習分野と資格取得との関係や卒業後の進学先や就職先など進路についてガイダンスを行い、将来のスペシャリストとして必要とされる専門性の基礎・基本の学習の重要性について理解させる。

□小単元ごとの評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
商業の学習分野の目指す能力や科目の内容と資格取得との関係及び学習分野と進路とのかわりについて、自ら進んで調べたりまとめたりしようとする。	商業の学習分野の目指す能力や科目の内容と資格取得との関係及び学習分野と進路とのかわりについて、様々な角度から考察し、自らの進路を判断しようとする。	商業の学習分野の目指す能力や科目の内容と資格取得との関係及び学習分野と進路とのかわりについて、様々な資料を活用して客観的に把握し、その過程及び結果を具体的に説明することができる。	商業の学習分野の目指す能力や科目の内容と資格取得との関係について、基礎的・基本的な知識を身に付け、自らの学習と進路の結びつきの大切さを理解している。

□各授業時間ごとの主な内容 (【関】:【関心・意欲・態度】、【思】:【思考・判断】、【技】:【技能・表現】、【知】:【知識・理解】)

1 学習内容のアウトライン			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1 時間目	○商業科目のいろいろ	○商業の学習分野で身に付ける能力及びビジネスの基礎・基本の能力と、関連づける商業科目を理解する。 ○ビジネスの基礎・基本の能力について、具体的に説明することができる。【技】 ・流通ビジネス分野とマーケティング能力 ・国際経済分野と国際交流能力 ・簿記会計分野と会計活用能力 ・経営情報分野と情報活用能力 ・ビジネスの理解力や実践力	○プリント提出確認 ノートの提出状況と学習内容のまとめ方を評価する。

2 ゆっくり楽しく学習しよう			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第2時間目	○商業科目の学習方法	<p>○商業の学習分野や各科目の内容にかかわりのある資格取得を自ら進んで調べようとする。 【関】</p> <p>○学習分野や商業科目にかかわって、どのような資格取得があるかを資料により把握し、その内容を説明することができる。</p> <p>○商業の学習分野や商業科目の内容と資格取得との関係について理解する。</p> <p>○商業科目の学び方を学校の教育課程表や進路などと結びつけて考えようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習への主体性 ・学習の基礎・基本の重要性 ・学習分野と資格取得 	<p>○事前レポート（ワークシート）と行動観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ事前レポートに、商業の学習分野にかかわりのある資格を調べさせておく。 ・事前レポートの調べ内容を発表し、その態度と発表内容を評価する。
第3時間目	○商業の学習分野と進路	<p>○商業の学習分野や商業科目と進路とのかかわりの中で、職業について自ら進んで調べたりまとめたりしようとする。</p> <p>○学習分野や資格取得とかかわって、自らの進路を考えようとする。 【思】</p> <p>○商業の学習分野や資格取得と進路とのかかわりについて、資料により把握し、進路を具体的に説明することができる。</p> <p>○商業の学習分野の基礎的・基本的な知識を身に付け、自らの学習と卒業後の進路の結びつきの大切さを理解する。 【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習分野と職業との関係 ・卒業後の進路 ・生涯学習の必要性 	<p>○グループ学習</p> <p>グループ討議の中で自らの進路を検討し、その態度や発表内容を評価する。</p> <p>○自己評価シート提出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の総括的な位置付けの本授業において、自己評価するとともに、自らの進路をまとめて提出する。 ・自己評価シートを考察し、評価する。

(2) 小単元の指導と評価の計画 その2

小単元「流通活動と企業」の指導と評価の計画 (三次 企業活動とマーケティング 抜粋)

授業の流れ		学習活動における具体的評価規準および評価方法				
次	時	学習内容	学習活動における具体的評価規準および評価方法			
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
			一次 流通の担い手である企業(3時間) 二次 企業の経営組織(2時間) 三次 企業活動とマーケティング(3時間)			
3	1	・マーケティングとは何か理解させる。	マーケティングとはどんな活動に関心を持ち、意欲的にまとめようとしている。 (行動観察)			
	2	・マーケティング活動の内容をビジネスシミュレーションソフトを利用し理解させる。		ビジネスシミュレーションソフトを通して、マーケティングの要素が、コンビニ経営に与える影響について考察している。 (ワークシート)		マーケティング活動内容にはどのような活動があるのか、ビジネスシミュレーションソフトを利用しその内容を理解している。 (対話・ワークシート)
	3	・マーケティング管理をビジネスシミュレーションソフトを利用し理解させる。			マーケティング管理とはどういうことか、ビジネスシミュレーションソフトを利用してわかることを説明できる。 (ノート)	

9 学習指導案 科目「ビジネス基礎」 学習指導案例 その1

教科(科目)	ビジネス基礎	単元名	ゆっくり楽しく学ぶ
本時主題	ゆっくり楽しく学習しよう (3時間目/3時間)		
本時の 目 標	①学習分野や資格取得とかかわって、自らの進路を考えようとする。【思考・判断】 ②商業の学習分野の基礎的・基本的な知識を学習することが、卒業後の進路にかかわって大切であることを理解する。 【知識・理解】		
時間	指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価
5分	<導入> ・商業の学習分野と関係のある資格取得を発表させ、理解させる。	○流通ビジネス分野、国際経済分野、簿記会計分野、経営情報分野に関係のある資格取得を発表し、確認する。 Question 1 商業の学習分野と関係のある資格取得にはどのようなものがあるか。	○学習分野に関係のある資格を発表させる。
40分	<展開> ・現在の学校に入学した理由及び入学後に取り組みたいことを発表させる。	○現在の学校に入学した理由や入学後の取り組みたいことを発表する。 ○商業の学習分野と関係のある資格取得を確認する。	○入学した理由、取り組みたいこと、資格取得について事前レポートにまとめさせて、本授業発表資料とする。の 発問、挙手、発表
	・資格に関係の深い職業を検討させる。 ・資格に関係の深い職業を発表させ、理解させる。	○資格に関係の深いと職業をグループ討議する。 Question 2 資格に関係の深い職業にどのようなものがあるか。 ○資格に関係の深いと職業を個人発表する。	○グループ討議中は机間指を行う。 ○資格に関係の深い職業を個人発表させるとともに、職業が資格に結び付く理由を答えさせる。 【思考・判断】 発問、挙手、発表
	・資格に関係の深い進路(就職・進学)を自らの進路を考えながら検討し、発表させる。 ・学校の進路状況に関する資料を参考にさせる。 ・資格に関係の深い職業を発表させ、理解させる。	○資格を生かした進路(就職・進学)をグループ討議する。 Question 3 資格を生かした進路としてどのような就職・進学があるか。 ○資格に関係の深いと職業を個人発表する。	○グループ討議中は机間指導を行う。 ○学校の進路状況に関する資料に基づいてグループ討議させる。 ○自らの進路を踏まえて、資格に関係の深い職業を個人発表させる。 【思考・判断】 発問、挙手、発表
5分	<まとめ> ・資格取得を生かした卒業後の進路や将来学び続けたい学習内容を考えさせ、理解させる。	Question 4 卒業後の就職・進学の進路を踏まえて将来にわたって学び続けたい学習内容を考えなさい。	○事前レポートを提出させる。 ○本時の学習内容の確認と卒業後進路や将来学び続けたい学習内容を自己評価シートに記入させ、提出させる。 【思考・判断】【知識・理解】

〈指導上のポイントと考察〉

「ビジネス基礎」でのマーケティングを扱う時間と内容が少ないのでいかにその内容を押さえるかが大切である。そのなかで特に生徒が身近に感じ、すぐにわかりやすいのがコンビニエンスストアである。近くのコンビニへ出かけてどんな陳列になっているのか市場調査がしやすい。内容もわかりやすく取りかかりやすいのでグループでなく個人でも行いやすい。小売業は立地産業であることを押さえ、商品陳列や棚割、販売促進という点も押さえられる。何気なく入っているコンビニでこのマーケティングが具体的に実体験でき、理解へとつなげたい。

- 注1：講義中心の一方向的な授業になりやすいので、生徒に主体性を持たせるため、学習支援用パソコンを活用した。また、グループで討議し発表できるような授業展開とした。
- 注2：情報機器の操作方法は、生徒により差がある。スムーズに行えるよう配慮が必要である。
- 注3：生徒配付資料とおなじプリントを拡大印刷もしくは模造紙を利用して掲示するとよい。
- 注4：時間配分を適当にしないと2日目には入れないので注意する。
- 注5：机間指導をしながら生徒の考えや状況を把握し、授業展開に反映していく。
- 注6：グループの代表者の意見を尊重しながら、補足説明をする。
- 注7：簿記の授業の進度により売上、売上原価を学習していなかったり、3分法によらないところは説明を要す。

※ 参考サイト www.teacher.ne.jp/welcome/seihin/s_ytt/index.html
このURLアドレスはベネッセコーポレーションのスクールオンライン【総合学習・特別活動】職体験シミュレーションのサイトである。「やってみ店長」はベネッセコーポレーションの製品である。

〈実践風景〉

グループでの討議



店舗の設定開始



設定終了、開店



営業状況を見る



各グループの結果を記録する



損益計算書の記入 注7

